《第95回》令和三年五月の作品

〈五月十四日（金）　通信句会〉

卯の花や人訪ね来て立ち話　（一江）

初夏の桜木町をゴンドラで　（正雄）

また一人音なく逝きぬ花の冷え　（正佳）

初燕水面飛行を繰り返す　（奉男）

惜春のなんじゃもんじゃの花淡く　（平六）

春暑し球を投げたる子規の声　（芙紗）

新緑の小川に古き丸木橋　（隆治）

子らとゐて「鬼滅の刃」読む五月　（孝昭）

藤棚の花に触れんと背中の児　（貴美）

カレンダーパリッと剥がし聖五月　（前歩）

湯治宿イタヤカエデの芽吹きかな　（清助）